



多文化共生社会の実現へむけたキャリア教育の実践

キーワード

地域連携／職業体験活動／外国につながる生徒／自己肯定感

取組概要

本校は外国につながる生徒たちの割合が高く、生徒の中には母語・日本語・英語の3か国語を使え、ワールドワイドなパイプ役として即戦力になる人材が豊富にいる。多文化共生社会の実現にむけて、日本人生徒や外国につながる生徒、すべての生徒一人ひとりの能力を活かし、育てるキャリア教育の実践を進めている。

取組の詳細

1 職業体験活動

- ①鈴鹿商工会議所との連携
 - ・2年生20名程度が、地域の企業（販売業、製造業、サービス業等）において、3日間インターンシップを実施。
- ②外国につながるみなさんのみえの仕事体験プログラム
 - ・夏と秋の2回、公益財団法人三重県産業支援センター主催で職業体験（社会福祉業、宿泊業、飲食業、製造業）を実施。
 - ・日本で働くことへの理解が深まり、プログラム後も体験企業で、アルバイトとして働く生徒もいる。



2 地域と連携した活動

- ①鈴鹿サーキットで行われるF1グランプリでの通訳
 - ・鉄道会社の依頼を受け、外国人観光客に対応した通訳を実施。
 - ・生徒にとっては、地域で活躍し、自分が社会の役に立っていることを実感できる場となっている。
- ②わいわい春祭り
 - ・生徒5名程度が、鈴鹿市国際交流協会主催の祭りの実行委員として参加。
 - ・地域の方と共に国際交流イベントの企画・運営に携わっている。



3 県と連携した就職・進学セミナー

- ①県の「外国人生徒キャリアサポート事業」
 - ・英語コミュニケーション科1年生全員を対象にセミナーを実施。
 - ・卒業生から、「高校生活・大学生活、就職について」経験談を話してもらい、自己の将来の進路選択に向けて考える機会としている。



基礎情報

全日制課程（令和7年5月）
応用デザイン科 1学年2クラス 計 235名
英語コミュニケーション科 1学年 2クラス 222名
外国につながる生徒が多く、英語コミュニケーション科では7割程度の生徒が外国につながりを持つ。つながりのある国は16ヶ国で、国籍や日本での在住期間もさまざまである。

成果

【生徒アンケートより（通訳ボランティア）】（一部抜粋）

- ・このボランティアのおかげで、初対面の人たちと話す経験をしました。経験を積み重ねて、将来グローバル系企業で活躍したいと思うようになりました。
- ・私は活動中に多くの外国人の人と話せたことで、自分の英語力が伸びていることに気づきました。

▼外国につながる生徒にとっては、自分の持つ力が社会の役に立っているという実感を持たせることができ、自己肯定感を高め、市民性を育むことにつながっている。

▼日本人生徒については、教育活動のなかで多様な文化や価値観を共有することで、多文化共生について理解を深めることができている。

課題や今後に向けて

・生徒一人ひとりの日本での在住期間が異なり、義務教育段階でどのようなキャリア教育を受けてきたかに違いがある。教員が、個々の文化的・社会的経験の違いを理解し、支援する必要がある。

・地域と連携した活動は、生徒の社会的自立を促すだけでなく、地域住民に対して、多様性の変容をもたらすことにもつながる。